

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	531 矢田川分流堰操作業務経費	会計	01	一般会計
		款	08	土木費
		項	03	河川費
基本施策	15 自然災害等への十分な備えをする	目	03	準用河川改修対策費
		細目	355	準用河川管理費
行革大綱の重点事項番号		細々目	02	矢田川分流堰操作業務経費
担当部課	コード	190500	担当者氏名	福田 康彦
	名称	建設1課		連絡先

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	矢田川分流堰の操作業務に関する事務の執行	※対象件数
成果(どうする)	自然災害等への備えが図られる。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業内容	矢田川分流堰の操作業務委託(県管理施設の受託事業で定期点検・非常時点検操作)	
社会情勢の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 建設用地		1 運営主体	
2 建設面積(延床面積)		委託先	
3 規模・構造		2 配置人員	人
4 総事業費	千円	3 年間運営費	千円
		4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
点検操作業務回数		回	目標	12	目標	12
			実績	12	実績	12
			目標		目標	
			実績		実績	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
施設維持管理日数		住民満足度を指数とすべきであるが、把握が困難なため本指標を採用	日	目標	366	目標	365
				実績	366	実績	365
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求
直接事業費計(A)	276	274	290	290
Aの財源内訳				
国庫支出金				
県支出金	276	274	290	290
地方債				
その他	0	0		
一般財源	0	0	0	0
事業投入人件費(B)	0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440
フルコスト(A)+(B)	1,716	1,714	1,730	1,730

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	県からの受託事務を地区に委託し効率的である。
	受益者負担を求めることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	
昨年度の取組状況	【状況】 【詳細】

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	北山 太加視
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 河川災害の発生を防止するため、引続き当該施設の維持管理を実施する。
現時点における課題、その他	近年の異常気象による集中豪雨の発生件数が増加している状況であり、異常出水時の待機及び出動回数の増加が考えられる。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	施設の定期的な点検を実施し、施設の状況把握を行い、非常時に備え危機管理体制を図る。